

# 2014年W杯におけるハイボールの競り合いとその後のプレーの関係について

竹内 洸 (競技スポーツ学科 コーチングコース)

指導教員 山田 庸

キーワード：セカンドボール，ロングボール，ヘディング

## 1. 緒言

2014年ブラジルワールドカップ(W杯)では、ポゼッションだけでなくボールを奪ってから前に速いカウンターも狙うドイツ代表が優勝した。このようにこれからの最先端の戦術は前に速いサッカーがなると予想されている。本研究では、2014年W杯ブラジル大会でのハイボールの競り合いとその後のプレーの関係を検討することを目的とした。

## 2. 方法

W杯2014年ブラジル大会の日本代表 vs ギリシャ代表，日本代表 vs コロンビア代表，ドイツ代表 vs アルゼンチン，ドイツ代表 vs ブラジル代表の4試合で行われたハイボールの競り合い計160プレーを対象とした。ハイボールの競り合いとその後のプレーの関係を明らかにするために、

対象試合について以上の項目を集計して分析を行った。

- 1)各チームのハイボールを蹴った回数
- 2)競り合いの勝敗
- 3)セカンドボールの成功・失敗
- 4)シュートまで持って行った回数

## 3. 結果および考察

表1はドイツと日本における競り合い後にシュートに至ったプレー数を示している。ドイツは競り合った回数が58本でシュートに至ったプレーが6本、日本は同102本中2本であった。 $\chi^2$ 検定の結果、ドイツは、日本に比べ有意に多かった。

## 4. まとめ

ハイボールの競り合いとその後のプレー

において、ドイツ代表は日本代表と比べ、

- 1)ハイボールの競り合いの勝率は、同等である。
- 2)セカンドボール奪取の勝率は、同等である。
- 3)ハイボールの競り合いの後のプレーからシュートに至るプレーが多い。

表1 競り合いの勝敗数の国別比較

| 競り合いの勝敗 |     |        |       |       |     |
|---------|-----|--------|-------|-------|-----|
|         |     | 競り合い   |       | 合計    |     |
|         |     | 負け     | 勝ち    |       |     |
| 対象国     | ドイツ | 度数     | 25    | 33    | 58  |
|         |     | 調整済み残差 | 1.90  | -1.90 |     |
|         | 日本  | 度数     | 29    | 73    | 102 |
|         |     | 調整済み残差 | -1.90 | 1.90  |     |
| 合計      |     | 度数     | 54    | 106   | 160 |

$$\chi^2 = 3.560 \quad (P = 0.059)$$

表2 シュートへの展開数の国別比較

| シュートへの展開 |     |        |      |      |     |
|----------|-----|--------|------|------|-----|
|          |     | シュート   |      | 合計   |     |
|          |     | していない  | した   |      |     |
| 対象国      | ドイツ | 度数     | 52   | 6    | 58  |
|          |     | 調整済み残差 | -2.3 | 2.3  |     |
|          | 日本  | 度数     | 100  | 2    | 102 |
|          |     | 調整済み残差 | 2.3  | -2.3 |     |
| 合計       |     | 度数     | 152  | 8    | 160 |

$$\text{有意差あり: } \chi^2 = 5.472 \quad (P = 0.019)$$

## 参考文献

Szwarc, A. (2007) The efficiency model of soccer, player's actions, in cooperation with other team players at the FIFA World Cup. Human movement, 9 (1), 56-61.

高嶋紳也(2012) サッカーの試合におけるセカンドボール奪取率と勝敗との関係性について